

新約聖書の中の奥義 第10回

□ 第三部「教会に関する5つの奥義」のアウトライン

- A) 七つの星と七つの金の燭台の奥義
- B) からだの奥義
- C) 内住のメシアの奥義
- D) メシアの花嫁としての教会についての奥義
- E) 信者の変換の奥義

□ 内住のメシアの奥義を学んで、関連するテーマに

内住のメシアを含め、メシアは現在どのような働きをしておられるのか。
「メシアの現在の働き」についての学び

□ 「メシアの現在の働き」のアウトライン

- A) メシアの現在の地位
- B) メシアの現在の働き— 天において 5つのこと
- C) メシアの現在の働き— 地において 11のこと
- D) メシアと信者たちとの関係 象徴的な7つの表現

□ 前回まで A) ~C) の要点

- A) メシアの現在の地位・・・父なる神の右に座す=父なる神と同等の地位
- B) メシアの現在の働き— 天において 5つのこと
 1. 天と地のすべてを支配しておられる (マタ 28 : 18)
 2. 信者たちのために、天において場所を準備しておられる (ヨハ 14 : 1~3)
 3. 神と人との間の仲介者として働いておられる (Iテモ 2 : 5)
 4. 信者たちのために、弁護人また慰め主として働いておられる (Iヨハ 2 : 1)・・・信者の罪との関係
 5. 信者たちのために、とりなしをしておられる (ロマ 8 : 34、ヘブ 4 : 14~16、10 : 21~22)・・・信者の弱さや無力と関係、特に誘惑や試練を受けているとき
- C) メシアの現在の働き— 地において 11のこと
 1. 教会の頭 (かしら) である (エペソ 1 : 22~23、コロ 1 : 18)
 2. 教会を建て上げる (マタ 16 : 18)
 - 教会が完成すると、教会を地上から天へ引き上げ、ご自分のところに來させる。

3. 教会の中におられる (ヨハ 17:23、26、マタ 28:20)
 - メシアは「神であり人である」お方である。人間性においてメシアは、今は天におられる、しかし、神性においては、遍在（どこにでもおられる）であり、教会の中にもおられる。
4. 永遠のいのちを与える (ヨハ 1:4、10:10、11:25、14:6、Iヨハ 5:12、コロ 3:3~4)
5. 信者の中に住む (ヨハ 14:20、23、15:4~5、ガラ 2:20、コロ 1:25~27、Iヨハ 3:24)
 - メシアは「神であり人である」お方である。人としては、現在、天において父なる神の右に座しておられるが、神としては遍在のお方である。メシアは現在、すべての信者のうちに住んでおられる。
6. 信者の強さの源である (ペリ 4:13)
7. 信者の活動力の源である (マタ 28:18~20)
8. 信者の祈りに答える (ヨハ 14:13~14)
 - 祈りに対する答えのすべては、メシアの働きによるものである。
9. 信者を助ける (ヘブ 2:18、ヘブ 4:16)
 - キリストが信者を助けるのは、特に信者が誘惑を受けているときである。これは、天でのメシアの働き 5 番目と関係する。メシアは、天において父なる神の前でとりなしてくださる。それとともに、地上において個々人に必要な助けを与えてくださる。
10. イエスは、信者の希望の基盤である (コロ 1:27、ロマ 8:23)
 - 信者は地上において肉体的な限界があり、霊的な戦いの中で苦闘する。しかし、信者には望みがある。それは、神の子とされること、すなわち体が贖われることの望みである。死者の中からよみがえったキリストは、信者の望みの基盤である。
11. 聖霊を送る (ルカ 24:49、ヨハ 14:16~17、14:26、15:26、16:7)
 - 聖霊はさまざまな働きと使命を持っておられるが、その聖霊を送ってくださるのは、メシアである。

□ 本日のアウトライン D) 象徴的な 7 つの表現 **メシア**と**信者たち**との関係について

1. **最後のアダム**と**新しく造られた者**
2. **頭とからだ**
3. **羊飼いと羊**
4. **ぶどうの木と枝**
5. **隅のかしら石**と**建物の石**
6. **大祭司**と**王直轄の祭司たち**
7. **花婿**と**花嫁**

象徴的な7つの表現 **メシア**と**信者たち**との関係について1. **最後のアダム**と**新しく造られた者** (I コリ 15 : 45、II コリ 5 : 17)

- (1) I コリ 15 : 45 こう書かれています。「最初の人アダムは生きる魂となった。」しかし、**最後のアダム**は生かす霊となりました。
- ① 最初の人アダムは、創世記 2 : 7、土で形造られ、その鼻にいのちの息を吹き込まれて、「生きるもの (原文直訳 生きる魂)」となった。しかし、アダムがサタンの誘惑によって罪に堕ちたとき、彼は死ぬものとなり、彼の子孫もすべて、死ぬこととなった。
 - ② これに対して、最後のアダムであり、第二の人 (I コリ 15 : 47) であるメシアは、「いのちを与える御霊 (原文直訳 生かす霊)」となった。メシアにあって、すべての人は生きることができるようになされたからである。
 - ③ 【補足】 アダムは造られたときに、罪を犯す可能性はあったが、まだ罪をもっていなかった。イエスも聖霊によって処女から生まれ、アダムからの罪の性質を受け継ぐことがなかった。生まれたときに罪を持たない人は、人類史上、イエス唯一人である。その意味で、第二のアダムであり、最後のアダムである。
- (2) II コリ 5 : 17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は**新しく造られた者**です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。
- ① 最後のアダムは、信者に新しいいのち、永遠のいのちを授ける。信者は、メシアにあって「新しく造られた者」(II コリ 5 : 17) である。
 - ② 人が新しいいのちを受け取るかどうかは、メシアを信じるかどうか⇒キリストのうちにあるかどうか、である。
- (3) 最後のアダムとは、イエスである。新しく造られた者とは信者である。

2. **頭 (かしら)** と**からだ**

- (1) コロ 1 : 18 また御子はその**からだ**である教会の**かしら**です。
- (2) メシアは、教会の頭 (かしら) である。教会は、メシアのからだである。この関係は4つのことを表現している。
- ① メシアは指示を与える。脳が肉体に指令するように、頭であるメシアは教会に指示を与える。
 - ② メシアは統制する。頭が体の動きをコントロールしているように、メシアも教会をコントロールする。
 - ③ メシアは養う。頭は脳のコントロール機能をもって、からだ全体に養分を補給する。同様に、メシアも教会を養う。
 - ④ メシアは霊的な賜物を与える。聖霊の賜物については、I コリ 12 章が詳しく扱っているが、そこでの教えは頭とからだの関係に基づいている。聖霊を送るのは、メシアである。

3. 羊飼いと羊

- (1) ヨハ 10 : 1~30 11 節 わたしは良い**牧者**です。良い牧者は**羊たち**のためにいのちを捨てます。
- (2) メシアは羊飼いであり、信者たちは羊である。この関係は三重の意味を持つ。
 - ① **導き** : 羊飼いが羊の群れを導くように、良き羊飼いであるメシアは信者を導く。
 - ② **世話** : 良き羊飼いが、心を込めて羊の世話をするように、メシアも信者を世話して下さる。
 - ③ **食べさせること** : 牧草地を見つけるのは羊の責任ではない。羊に適した草のある場所に羊を連れていくのは、羊飼いの責任である。メシアは信者のために、彼らに不可欠な物質面での必要と、霊的な必要を満たして下さる。

4. ぶどうの木と枝

- (1) ヨハ 15 : 1~7 5 節 わたしは**ぶどうの木**、あなたがたは**枝**です。
- (2) メシアはぶどうの木であり、信者は枝である。この関係は、二つの意味を持つ。
 - ① **実を結ぶこと** : 枝は、ぶどうの木につながっていなければ、実を結ぶことはできない。ぶどうの木が持つ樹液が、枝にいのちを与える。それにあずかるなら、枝は実を結ぶ。同様に、信者がメシアの中にとどまるなら、実を結ぶ。
 - ② **増殖** : ぶどうの木は実を結ぶだけでなく、種を生じ、種は新たなぶどうの木となり、より豊かに実を結ぶようになる。同様に、信者には次の信者を生み出す責任がある。メシアによって救われたことを証言し、福音を分かち合うことで、次の信者を生み出すことである。そうすると、次の信者たちも実を結ぶので、全体でより豊かな実を結ぶようになる。

5. 隅のかしら石と建物の石

- (1) I ペテ 2:4~8 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。あなたがた自身も**生ける石**として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して捧げる、聖なる祭司となります。聖書にこう書いてあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い**要石**を据える。この方に信頼する者は決して失望させられることがない。」したがってこの石は、信じているあなたがたには尊いものですが、信じていない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石になった」のであり、それは「つまずきの石、妨げの岩」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからであり、またそうなるように定められていたのです。
 - ① メシアは要石=隅のかしら石、建物を建てる時に最初に置く土台石である。その石を起点として、その後、他の土台石を配置する。
 - ② 信者は、土台の上に立つ建物を構成する、一個一個の石、それも「生ける石」である (I ペテ 2 : 5)。
 - ③ 建物は、教会である。そして、それは「霊の家」、すなわち、神の神殿となる。

教会は、教会時代における神の神殿である。

- (2) マタイ 7：24～25 ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、**岩**の上に**自分の家**を建てた賢い人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に**土台**が据えられていたからです。
- ① 「自分の家」は、人間、一人ひとりの人生そのものである。岩の上に土台を据える＝岩を土台として家を建てる。メシアは岩であり、土台である。
 - ② メシアを信じて人生を安全なものにする。人が、確かな土台であるメシアに拠って立つならば、その人は、安全な建物を建てることになる。
 - ③ もしメシアを信じないなら、その人は、砂の上に建物を建てるようなもので、その結果は、揺らぎ倒れることになる（マタイ 7：26～27）。
 - ④ 【補足】マタイ 7：26～27 は、直接的には、メシアを拒否した当時のユダヤ人の世代を襲う出来事、紀元 70 年のエルサレム陥落を預言する。「しかもその倒れ方はひどいものでした」とは、エルサレム陥落時の惨状を指す。
- (3) I コリ 3：10～15 私は自分に与えられた神の恵みによって、賢い建築家のように**土台**を据えました。ほかの人がその上に**家**を建てるのです。しかし、どのように建てるかは、それぞれが注意しなければなりません。だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることができません。その土台とはイエス・キリストです。だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、それぞれの働きは明らかになります。「その日」がそれを明るみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火がそれぞれの、働きがどのようなものかを試すからです。だれかが建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。
- ① ここでは、土台はメシア、家は、一人ひとりの信者の信仰生活、信仰の実践である。実際に生活していく日々の霊的な信仰生活が、キリストという土台にふさわしいかどうか、である。「だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」（I コリ 3：11）。
 - ② 信者の行いは、神の目から見て、火に耐えて残る「金、銀、宝石」と、火で焼けて残らない「木、草、藁」がある（I コリ 3：12）。
 - ③ それが明らかとなるのは、「その日」である（I コリ 3：13）。
 - 「その日」とは、私たちが天に携挙された後、キリストの裁きの座に立つ日である。「私たちは、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストの裁きの座の前に現れなければならないのです。」（II コリ 5：10）。
 - この裁きは、報いを受ける、つまり報奨を受けるかどうかの判定であつ

て、救い失うことにはならない。「キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません」（ロマ 8：1）。信者は、一度受けた救いを失うことは、決してない。

- 「だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります」（I コリ 3：15）。損害を受けるとは、報いを受けることができない、冠をいただけない、ということである。新約聖書には、5種類の冠が約束されている。

6. 大祭司と王直轄の祭司たち

- (1) メシアは**大祭司**（ヘブ 7：1～10：18）、信者たちは「**王直轄の祭司たち**」（I ペテ 2：5、9）である。「王直轄の祭司」とは、レビ族アロンの家系でなくとも、信者は、王であり大祭司であるメシアのもとで、祭司の役割を持つということ。
- (2) この関係は、4つの意味を持つ。
 - ① 犠牲をささげること。犠牲をささげるのは、祭司の役割である。イエスがささげた犠牲は、ご自身の血であった。信者がささげるべきものは、賛美すること、感謝すること、もてなすこと、そして主の働きのために献金することである（ヘブル 13章）。
 - ② とりなすこと。イエスは信者たちのためにとりなしておられる。同様に、信者たちも他の信者たちのためにとりなしをすべきである。
 - ③ きよめること。旧約聖書の中で、レビ族アロンの家系の大祭司は、イスラエル民族全体を代表して、神の前で人々をきよめた。現在は、イエスが信者たちをきよめてくださる、その手段は、聖霊によって信者を聖別すること＝この世から取り分けることである。このとき、信者自身もこの聖別の働きに共同参加しなければならない。その手段は、I ヨハネ 1：9にあるように、自分の罪を告白することである。
 - ④ 祈ること。レビ族アロンの家系の大祭司は、神の民であるイスラエルを代表して、神の前に出た。それゆえ、イエスは大祭司として信者たちのために祈った（ヨハネ 17：9、20）。同様に、信者たちは互いのために祈り合うべきである。

7. 花婿と花嫁

- (1) エペ 5：25～32 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を捧げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。

私たちはキリストのからだの部分だからです。「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。

- ① この箇所は、夫に対する勧めであるが、夫がどのように妻を愛すべきか、それはメシアがどのように教会を愛し、養い育てているか、それと同じであると教えている。
 - ② **メシア**と**教会**の関係は、**夫**と**妻**の関係に象徴される。
 - ③ 教会がメシアの妻となるのは、エペソ 5:27「栄光の教会をご自分の前に立たせるとき」である。これは結婚式を指す。その日はまだ先である。今は、教会が形成されている時期である。その意味で、現在は、メシアは**花婿**、教会は**花嫁**であり、結婚式を目前に控えている時期である。
- (2) メシアは花婿、教会は花嫁である。この関係は、3つの基本的な意味を持つ。
- ① 備えること：花嫁は花婿が迎えに来るまで、その日のために身を正して備える。同様に、信者たちは備えをしつつ生活していなければならない。イエスが教会を迎えに来る日まで、備えをし、その時になったらすぐに出発できるようにしておこう。
 - ② 結び合うこと：教会はメシアと結び合わされている。その結びつきは、他のどのような結合形態とも異なるユニークなもので、信者全員がメシアの中にあるという形態で結合されている。
 - ③ 交流関係：夫と妻の間には深い交流関係があり、その深さは他の人とは持つことのできないほどのレベルである。同様に、信者たちはメシアと深い交流を共に持つことができる。

以上の7つの象徴的表現は、メシアの現在の働きを説明している。イエスは生きて働いておられる。そして、イエスが働いておられるから、信者たちは多くの祝福を享受できるのである。